

東京都市大学

理工系の女性卒業生の 実態調査結果を報告

東京都市大学は、2009年度から文部科学省の女性研究者支援事業「工学系イノベーションの男女共同参画モデル」に取り組んでいる。活動の一環として、2011年4月に理工系学部の女性卒業生を対象に実態調査を実施し、10月に結果報告会を行った。

調査を担当した女性研究者支援室によれば、予想を上回る500人以上の回答が得られ、理工系大学による同様の調査としては、全国的にも大規模なものだという。

調査結果から、卒業直後の就職率だけでなく、その後も高い有職率を維持していること、理工系分野に女性が少ない理由として「女性の意識」「男女の適性の差」を挙げる回答が多かったこと、などがわかった。また、「男性の補佐的業務しか与えられない」など、男女差を職場で感じたことがあるのは約6割で、学生時代の約2割を大きく上回った。

同大学は、調査結果を参考に、女性卒業生とのネットワーク構築や現役女子学生への支援にさらに力を入れていきたいとしている。

『Between』2011.12-2012.1月号